

1. 開催日時：2016 年 8 月 24 日（水） 13：30～16：05

2. 開催場所：島根県立石見高等看護学院 会議室

3. 出席者

氏名	所属	職名	備考
勝部 かつこ	益田保健所	総務保健部長	所長代理
宮内 幸子	益田赤十字病院	看護部長	
水津 昌子	益田地域医療センター 医師会病院	看護部長	
周藤 由香里	島根県立松江高等看護学院	副学院長	
寺戸 恵子	石見高等看護学院同窓会	会長	
岩本 正敬	石見高等看護学院	学院長	委員長
前原 豊弘	々	副学院長	
宅野 真由美	々	々	
吉田 真奈美	々	教務主任	
三浦 陽子	々	主任看護教員	
中島 美和子	々	々	
峯尾 まゆみ	々	々	事務局
加登 泉	々	看護教員	事務局

4. 会議次第

- 1) 委員長あいさつ
- 2) 自己紹介
- 3) 出席教職員の紹介
- 4) 学校評価について
- 5) 学院の概要・教育活動等について
- 6) 質疑応答
- 7) 評価の実施・結果についての説明と意見交換
- 8) 全体を終えての質疑応答
- 9) 今後の予定について

## 5. 協議内容

### 1) 委員長より挨拶

委員の皆様には快く委員をお引き受けくださり感謝している。今年度はじめて学校関係者評価を実施することになった。本日は学院の自己評価に対して委員の方々から忌憚ない意見をいただき、自己評価の客観性、透明性を高めていきたいと考える。よろしくお願ひしたい。

### 2) 自己紹介

委員より、自己紹介。

### 3) 出席職員の紹介

学院の出席教職員の紹介。

### 4) 学校評価について

学院より、学院のこれまでの学校評価の流れについて資料に基づき説明。

### 5) 学院の概要・教育活動について

- (1) 学院より、学院の概要および年間目標について資料に基づき説明。
- (2) 学院より、教務部目標について資料に基づき説明。

### 6) 前半までの質疑応答

委員より：教務部目標について説明された際に、教員間の連携が十分行われていると話しがあったが、具体的にどのような工夫をされているか。

学院より：教務会議や教務研究会など教員が一同に会するとき、指導に悩む学生のかかわり方などについて報告、相談をし合い、他の教員からアドバイスを受けながら教育活動を行っている。学生の問題を教員が1人で抱え込まないようにし、情報を共有し合い取り組んでいる。

精神的な問題については、専門家に繋ぐ必要があると判断した場合には、保護者に連絡を取った上で、学生の学業継続にむけて連携をとるようにしている。

委員より：ホームカミングデイに対する学生の事後評価についてはいかがか。

学院より：ホームカミングデイについては、平成 27 年度にはじめて実施した事業である。卒業生の反応については、実施してすぐに意見を求めるのはナンセンスであると考え、評価を求めていなかった。しかし、1つの事業として何らかの評価は必要であると考え。そのため、今年度は後日、写真を卒業生に送付する際に感想を書いてもらうはがきを同封し、評価していただこうと考えている。

委員より：ホームカミングデイの今年度の実績はいかがか。

学院より：今年度は参加が多かった。卒業したばかりの時期、いわば新人であるため、休み希望を出すのが難しい（出しにくい）現状があるようである。しかし、本事業に対する施設の管理者の理解が大きいところは融通していただいたようで参加者が多かったと思われる。ご理解、ご協力に感謝申し上げたい。

委員より：カウンセリングの利用状況について教えていただきたい。

学院より：カウンセリングについては保健委員会の活動内容であり、年度末に最終評価をしている。その結果を吸い上げて次の年の実施につなげている。気軽に相談してもらえるように、学年ごとに臨床心理士に講話をしていただいたりしている。

また、GHQ（精神健康調査）を実施して専門的なかわりが必要な学生に対しては専門家につなげるなど対応している。

#### 7) -1. 評価の実施・結果についての説明

- (1) 学院より、評価委員の活動および自己点検・自己評価の結果について資料に基づいて説明。
- (2) 学院より、「学生による学校評価アンケート」について資料に基づき説明。
- (3) 学院より、「学生による授業アンケート」および「保護者アンケート」について資料に基づき説明。
- (4) 学院より、「入学者アンケート」および「卒業前アンケート」について資料に基づき説明。

#### 7) -2. 意見交換

学院より：ただ今、自己点検・自己評価表について説明させていただいたが、項目ごとでなくとも全体を通して何かご意見・ご質問等あればご発言いただきたい。

委員より：実習に来た島根県東部の学生と話していると、奨学金をもらっていて地元に戻るといって学生が多いという印象を受けるが、現状はいかがか。

学院より：学生の東部と西部の在籍数をみると、3年生が1:1であり、1、2年生がそれぞれ1:2で西部の学生が多い状況である。東部の中山間地域の多くの病院が奨学金制度を設けている。学院は地域推薦制度を持っており、その地域推薦者がいずれ地元に戻ることから、病院の奨学金制度を活用している学生が多いといえる。島根県看護学生修学資金を併用している学生もいる。

他にも日本学生支援機構という組織がありそこから奨学金を借りている学生もいる。

委員より：評価委員会の活動の説明で、広報活動の一環として、ひとまるビジョンの活用を考慮しておられるが、特に女子学生がテレビで顔を出すと目をつけられるなど、安全面での危機感を感じるがいかがか。

学院より：男子の入学者が増えてきていることから、女子学生だけでなく男子学生にも出演してもらおうとも考えている。ご指摘をいただいたように、メディアに露出することによる弊害もないとはいえないため、そのようなことが無いように考慮したい。学院では、全学生が委員会に入り役割を持っている。その委員会の中に広報委員会があり、委員の学生としては企画に参画する気持ちがある様子である。貴重なご意見として今後、企画・運営していく上で考慮していきたい。

学院より：奨学金の話に少し関連しているが、現在、学院では学生確保が問題である。受験者数自体が少なくなっている状況ではあるが、学院を受験して合格しても、大学志向が強く、入学されないのが悩みである。それに対する何か良い意見があればぜひいただきたい。

委員より：以前から学院の大学化について話しに聞くことがある。それに関連して教えてもらえることがあれば伺いたい。

学院より：学院の大学化については、平成25年に策定した益田市医師会の中長期計画に挙がっており、情報収集をしている段階である。

学院より：県内のいろいろな病院に出かけると、学院の卒業生の良い評価をたくさんいただく。このような良い学校であるのに、学生が入らない。本当に悩んでいる。

島根県立大学（出雲キャンパス）が来年度より中山間地域の学校を対象とした推薦制度を設けた。中山間地域といいながらその対象が今後、全県に広がる可能性があり危機感を覚えている。学院が存在する意義（特に経済面での）は強く、ぜひこの石見の地に学院を残していきたい。面接で受験者に聞くと、やはり併願が多い。出願者を増やす目

的で高校訪問の範囲を広げており、東部の高校訪問に力を入れているところである。

また、看護師国家試験の合格率を 100%にしようと先生方も頑張っておられる。私はこの学院をとっても高く評価している。この学院があるからこそ、益田市内の病院に多くの看護師を就職させることができている。学院を魅力ある学校にし、どうにかして入学者を増やしていきたい。みなさんに何かいいご意見がないかお聞きしたい。

また、それに関連すること以外でも自由にご発言いただきたい。

委員より：それに関することと外れるかもしれないが、先ほど、自己点検・自己評価の結果の中の V「教育活動・教育指導」についての平均評価点が他の項目と比べて最も低くなっていると説明があった。同じ教育機関に勤めている身として教員の大変さを理解している。その立場から申しあげると、この学院は決して多くない教員数で講義や実習などされている。評価点が低いのは先生方が謙虚なだけであり、実際にはもっと高い評価で良いのではないかと思う。よく頑張っておられると感じている。このことを一言申しあげたい。

委員より：自分の身内が数年前に学院を卒業したが、今の教科書は写真や絵も多く使用されておりとても分かりやすくなっている。しかし、ほとんど教科書を使用しない科目があったようである。そのことについてどう考えるか。

学院より：教科書は、講師が推薦されるものを選択している。科目によっては教科書をあまり使用しない講師もおられる。学院は外部講師が多いが、教科書をどのように活用するかはそれぞれの講師・教員に委ねている。テキスト全てを使用して授業を行うことは難しい。副読本としての利用もしている。

委員より：進学を考えていた学生は全員合格し、進学されたか。最終的に就職へ変更した学生はいるか。

学院より：平成 27 年度は 4 名進学希望があり受験をした。そのうち 3 名が進学し、1 名は就職へ方向転換した。

委員より：学院の受験者数の増加に関連して、この学院では安い費用で 3 年間勉強すれば保健師や助産師の学校に進学できる資格が得られる。就職してから進学を目指すことも 1 つの選択肢である。大学志向はあるが、もっと勉強したい人は編入することができるので、そのような道もあることを PR したらよいのではないか。そのことを一般の人はあまり知っていないのではないか。

学院より：高校訪問において進路指導の先生とお話をさせていただくと、大学や専門学校の制度について先生方はよくご存知であると実感する。しかし、学院に関して詳しく説明させていただくと、新しい情報をお伝えできることもある。入学者アンケートなどから、進路を決定するにあたり、高校の進路指導教員の影響が大きいことが伺える。今後も、高校訪問においてしっかりと説明するようにしたい。

## 8) 全体を終えての質疑応答

特記事項なし

## 9) 今後の予定について

事務局より評価シートの送付の件と、評価の提出期限について説明した。また、本委員会の協議結果を外部に公表するにあたり、氏名、所属を公表する件について再度説明し、了承を得た。

<委員長>

今の学生のメンタル面の弱さを感じている。実習の場でご迷惑をおかけすることがあると思うが、関連病院の皆様には今後ともよろしくお願ひしたい。